

平成30年度 第4回 出張緩和ケア研修 アンケートのまとめ

I. 開催

- ・日 時：平成30年11月20日（火） 17:40～19:00
- ・場 所：介護老人保健施設みずばしょう ディケア室

II. 内容

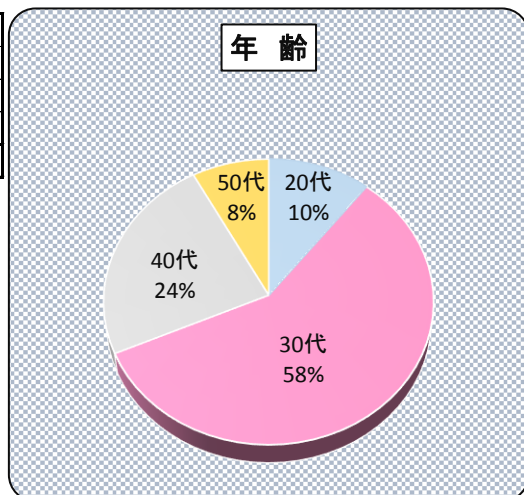
- ・テーマ：人生の最終段階における意思決定を支えるために
- ・講 師：鶴岡市立荘内病院 緩和ケア認定看護師 上林 沙希子氏

III. 参加者

- ・参加人数：44名
- ・アンケート協力者：38名（86%）

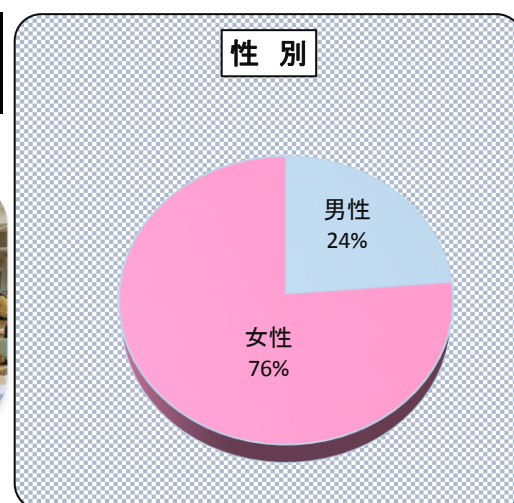
【年 齢】

20代	4
30代	22
40代	9
50代	3
計	38



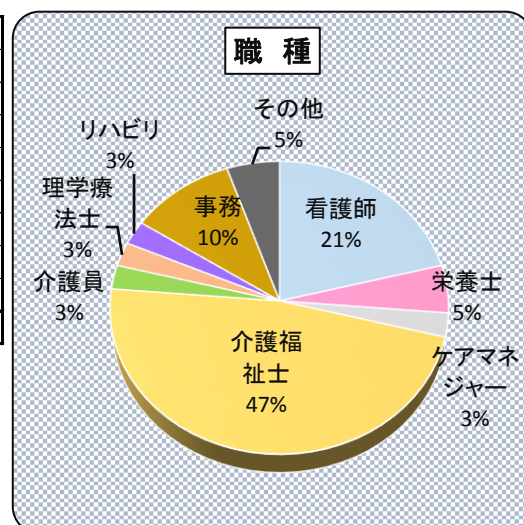
【性 別】

男性	9
女性	29
計	38



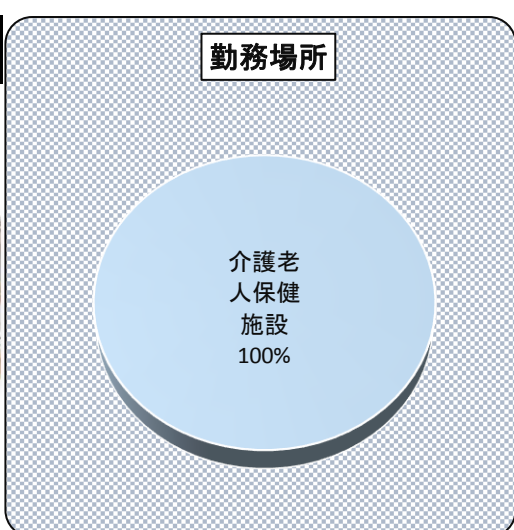
【職 種】

看護師	8
栄養士	2
ケアマネジャー	1
介護福祉士	18
介護員	1
理学療法士	1
リハビリ	1
事務	4
その他	2
計	38



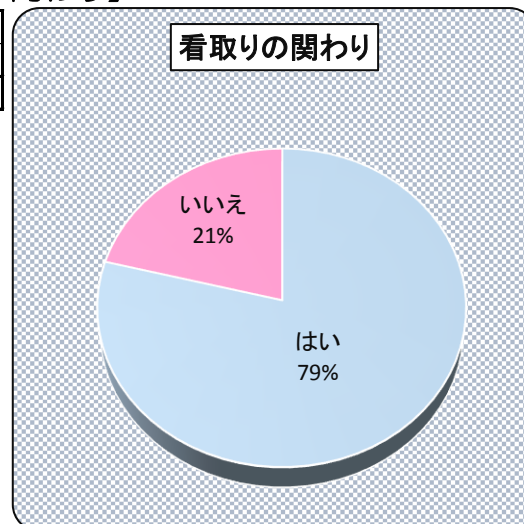
【勤務場所】

介護老人保健施設	38
計	38



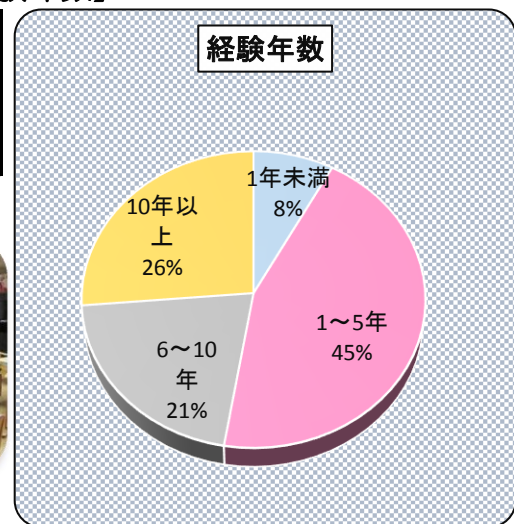
【看取りへの関わり】

はい	30
いいえ	8
計	38



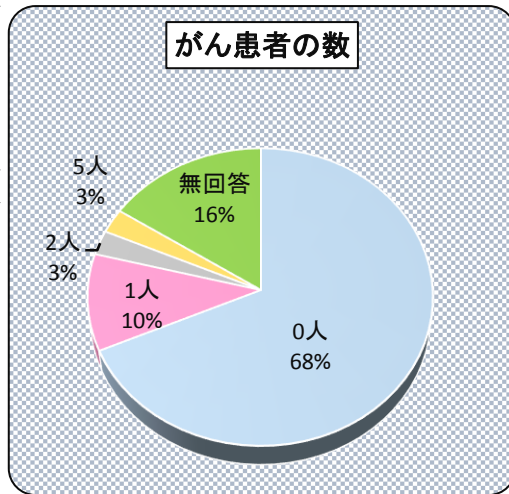
【現在の場所での経験年数】

1年未満	3
1年～5年	17
6年～10年	8
10年以上	10
計	38



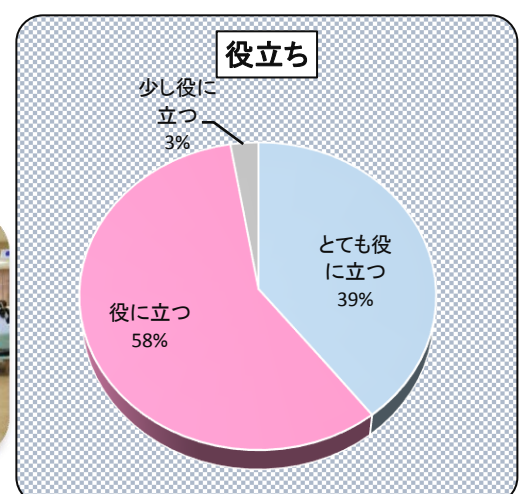
【昨年1年間関与して亡くなったがん患者さんの数】

0人	26
1人	4
2人	1
4人	1
無回答	6
計	38



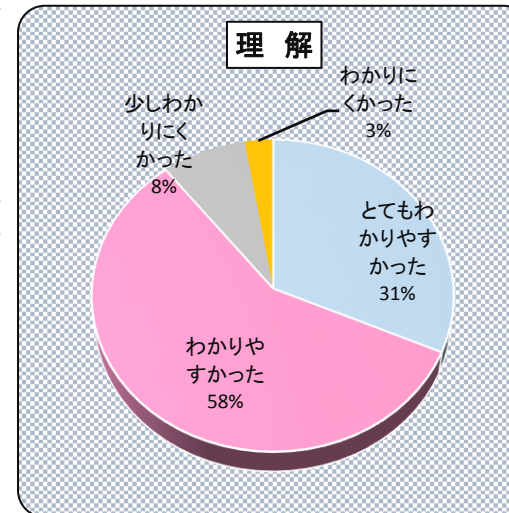
【今後の対応やケアでの役立ち】

とても役に立つ	15
役に立つ	22
少し役に立つ	1
計	38



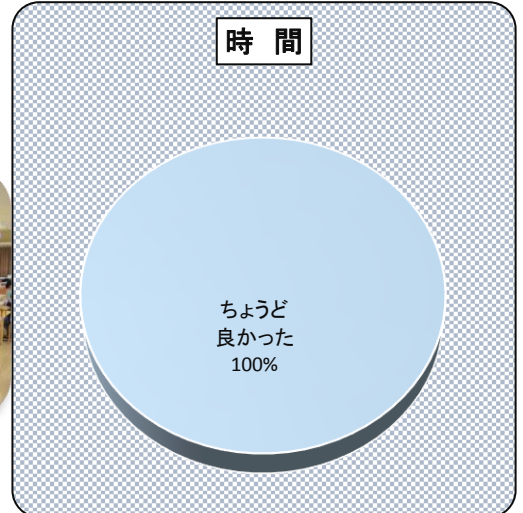
【研修の内容について】

とてもわかりやすい	12
わかりやすい	22
少し分かりにくかった	3
わかりにくかった	1
計	38



【研修時間】

ちょうど良かった	38
計	38



<自由記載>

- ▶ 「患者さんにとっての最善の治療方針を考える」ということは、難しいことも多いと思います。医療者、福祉関係者だけでなく、一般の人にもどう伝えていくか、も大切だと思います。(50代 看護師)
- ▶ グループワークを行うことで、実際、具体的な理解につながられた。簡単に決められることではないと感じた。(30代 リハビリ)
- ▶ 老健での緩和ケアを行うにあたり、医療機関との連携の図り方など、具体的にありましたら教えて頂きたいです。(40代 ケアマネジャー)
- ▶ 施設でのガン患者を看取ったことはないが、看取りと死期を経験すると思うと不安があると思った。病院でのガン患者に対し、対応は看護助手と介護士対応は違うと思った。(30代 介護福祉士)
- ▶ 普段、看取りは携わったことはないですが、最期まで本人の意思やFaの希望等を確認して行っていくことが、本人の尊重につながっていくことだと改めて実感しました。最期まで出来るように普段からのコミュニケーションを心がけたいと思いました。ありがとうございました。(30代 介護員)
- ▶ ACPを考えるよい機会となりました。ありがとうございました。(50代 看護師)
- ▶ 講義ありがとうございました。他職種での合意形成には、やはり「患者、利用者」の意思の十分な確認が不可欠と改めて感じました。それを確認したうえで、可能な限り連携をとり、チームで支えていく姿勢を持っていきたいと思いました。(40代 介護福祉士)
- ▶ 勉強になりました。ありがとうございました。(30代 介護福祉士)
- ▶ ACPのタイミングで、迷うことがありましたが、1年という所で参考にしたいと思いました。(30代 介護福祉士)
- ▶ 合意形成に至るまでのグループワークでは、短い時間ではあったが、色々な意見を聞くことができて良かった。(40代 看護師)
- ▶ 多職種カンファレンスの手順を確認でき、とても分かりやすかった。今後活かしていきたいと思う(30代 介護福祉士)
- ▶ 看取りについてはいつも何が出来るか考えます。難しいことですが、今できることを考えて実際に行動できればと思います。(30代 職種不明)